

横浜市政記者、横浜ラジオ・テレビ記者 各位

## 開港 150 周年を契機とした米軍施設返還後の跡地利用を推進します！ ～深谷通信所における提案公募事業の取り組み～

- 深谷通信所は、戦後長きにわたる接收の歴史を経て、平成16年10月に返還の方針が日米政府間で合意されました。
- 当地は、直径約1 kmの円形形状で、首都圏における貴重な大規模空間資源であるという特徴から、地域の意向を尊重しつつ、創造的で特出した跡地利用が求められます。
- また、面積約77haの全域が国有地であり、接收の当事者でもある国に対しては、早急な返還と跡地利用の推進を求めています。
- この取り組みを加速させていくため、開港150周年と連動し、
  - ・平成21年度の提案公募事業（アイデアコンペ）の実施を目指して、今般、実施主体となる実行委員会を設立します。
  - ・この夏に子供たちを対象とした開港150周年プレイベントを実施します。

### 1 提案公募事業（アイデアコンペ）（所管：都市経営局基地対策課）

#### (1) 目的・ねらい

- ・直径約1 kmの円形形状で、首都圏における貴重な大規模空間資源であるという特徴を活かした、跡地利用に関する創造的で特出した提案を広く求めること。
- ・跡地利用に関する提案を幅広く募集することで、跡地利用の具体化に向けた取組の社会的関心を高め、国に対して、早期返還と跡地利用の推進を働きかけていくこと。
- ・寄せられた提案の趣旨を尊重し、跡地利用の具体化検討に活かしていくこと。

#### (2) 募集する提案等

- ・指針に掲げた跡地利用全体のテーマである「横浜から始める首都圏の環境再生」の実現に資する、地区の特徴を活かした跡地利用に関する提案やアイデアを募集します。

#### (3) 実行委員会の設立 ※平成20年6月2日(横浜開港記念日)に設立します。

- ・提案公募事業（アイデアコンペ）を市民・団体等との協働で進めるため、まちづくり、環境、地域の活性化の視点から以下の団体の参画による実行委員会を設立します。

#### 【実行委員会の構成】

地域・広域のまちづくり関係団体	社団法人 日本都市計画学会
	NPO 日本都市計画家協会
環境・緑・景観等の関係団体	社団法人 日本公園緑地協会
	社団法人 日本造園学会
	財団法人 横浜市緑の協会
地元経済界	横浜商工会議所
	社団法人 横浜青年会議所
地域	泉区連合自治会町内会会長会
	戸塚区連合町内会自治会連絡会
行政	神奈川県、横浜市

※実行委員会は、平成20年6月2日10時～市庁舎2階応接室で開催します。  
 （※取材については、後日お知らせします。）

#### (4) スケジュール

- ・平成20年度：実行委員会設立、実施計画策定
- ・平成21年度：提案公募事業（アイデアコンペ）実施（作品募集・審査） 予定

## 2 開港150周年イベント「みんなで考えよう！深谷通信所跡地の未来」

(所管：泉区区政推進課)

- ・ 来年度の提案公募事業（アイデアコンペ）に先立って、今年の夏休みに、地元の子供たちが深谷通信所跡地の未来を描く標記イベントを開催します。
- ・ 現地を見学した後、ワークショップを開催し、子供たちに深谷通信所跡地の理想の未来像を提案してもらいます。寄せられた成果は、提案公募事業（アイデアコンペ）・跡地利用などの参考にします。

### 【開催概要】

開催日時 平成20年7月28日（月）昼頃集合予定

対象 泉区・戸塚区に通学している小学生（4～5年生）先着20人

申し込み 平成20年6月11日（水）～25日（水）

電話かFAX（住所、氏名、電話番号、小学校名、学年を記載）で下記へ

問合わせ 泉区役所 区政推進課 TEL：800-2331、FAX：800-2505

※イベント内容の詳細は、申込締切後に各参加者に郵便でお知らせします。

### 【参考】

#### ■深谷通信所の概要

所在地 泉区和泉町、中田町

面積 約77.4ha（全域国有地）

経過 昭和20年9月2日

旧日本海軍の通信施設を米軍が接収

平成16年10月18日

日米合同委員会で返還方針を合意

管理 在日米海軍厚木航空施設司令部



実線が米軍施設の区域、破線がフェンス等で囲われた区域

#### ■跡地利用計画における位置づけ

- (1) 米軍施設返還跡地利用指針（平成18年6月策定）

##### 【跡地利用の方向】

- 特色あるデザインを持つ大規模な公園・緑地
- 交通利便性の向上に資する基盤整備
- 防災拠点機能の形成

- (2) 横浜市米軍施設返還跡地利用行動計画（平成19年3月策定）

##### 【具体化に向けた行動計画（抜粋）】

- 環境・緑・景観創造等をテーマとする「開港150周年記念国際アイデアコンペ」を実施し、横浜の環境再生への取組を世界にアピールするとともに、大規模返還施設にふさわしいシンボル空間としての整備につなげていきます。